

シネマズライフ

2012年12月21日発行 第30号

<http://p.booklog.jp/users/rion-takagi>

貴樹 諒音(たかぎ りおん)

☆ネットでも読める!!!誌です。主に映画の紹介とコラムです。よろしかったら、コメントで感想・お叱りお聞かせください。

映画の風景 日本の風景

※ 東京・日本橋 ※

昔、『麒麟の真 劇場版・新参者』という映画があった。こんな映画だ。東京・日本橋の「麒麟の真」像の前で一人の男がナイフに刺され死んだ。名前は青柳武明、カネセキ金蔵の製本部長だ。ところが不思議な事に青柳は刺された場所から「麒麟の真」の場所まで瀕死の状態で歩いてたどり着いて倒れていた。一方、現場の近くに潜んでいた警官の職務質問を振り切り逃げ出し、車にひかれ意識不明の重体に陥る。名



人の行き交う橋は人々の心も交わる。

前は八島冬樹。やがて、八島はカネセキ金蔵の工員をしていたが、突然解雇された。恨みの殺人かと思われたが、解雇された恨みの殺人かと思われたが、日本橋は江戸時代から、旅の出発点として知られていた。この映画でも、多くの人々の人生の出発点として始まっており、また再出発の場所でもある。日本には、何かを始める事を願える場所がある。これはすばらしい事だと思ふのだ。

『麒麟の真 劇場版・新参者』2011年 日本 監督：土井裕幸 原作：東野圭吾 出演：阿部寛 新垣結衣 瀧藤洋平 松坂桃李 橋本時生 山崎賢一 三浦貴大

東野圭吾の加賀恭一郎シリーズの第9弾。『新参者』がドラマ化され映画化された。主人公阿部寛がドラマ映画共加賀恭一郎を演じた。

CS・BS放送のオススメ映画を紹介しします!

on air!

『ビッグ』

イマジカBS

1988年 アメリカ

監督：ペニー・マーシャル

出演：トム・ハンクス エリザベス・パーキンス

デイヴィッド・モスコウ ジョン・ハード

12月24日(日) 21:00

ジョッシュはニュージャージーに住む野球とゲームが好きな普通の12歳の少年だ。年上の女の子が好きな彼は早く大人になりたいと願う。そして、カーニバルの夜。《どんな願い事もかなえる》という“ゾルダー”という不思議なマシンを見つけ思わず「僕を大人にして」と願ってしまう。そして翌日、ジョッシュはすっかり大人になっている自分に驚く。そんな彼をママにジョッシュだと信じてもらえない。親友・ピリーの協力で“ゾルダー”を探す事にするがそう簡単には探し出せない。とりあえず、おもちゃ会社に就職。子供向けのおもちゃを次々と開発して出世をし、恋人もできるがなぜか彼にはすっきりしないものがあった…。

せつない子供の願いが叶って大人の世界を覗いてみたら…っという映画です。大人は大人のする事もあるけど、子供は子供として経験しなければいけない事もある…。《自分を知らぬ事》そんな事を考えさせられる映画です。トム・ハンクスなごりっばな子供ぶりを見せてくれます。

『教祖誕生』

チャンネルNECO

1993年 日本

監督：天間敏宏

原作：ビートたけし 企画：森島行

出演：萩原聖人 玉置浩二 岸部一徳 下條正巳

12月27日(木) 深夜 27:00 ⇒ 12月28日(金) 03:00

高山和夫は旅の途中で布教活動に勤しむ宗教団体を見かける。インチキ臭い布教ぶりに興味を持った和夫は、彼らと行動を共にする事に。不思議な力は電気仕掛け・信者獲得はサクラを使っの布教だ。

ところが、内実は教祖を熱心に信じる駒村派と金儲けの手段としか考えていない司馬と経理担当の奥達と二派に別れており、なかなか内部の様子は複雑だ。その上、インチキなはず“教祖”が妙な自信を持ち始め、彼を仕立て上げたはずの司馬は激怒。彼を追い出してしまう。しかし、“教祖”がいないと組織は成り立たない。そこで司馬は素朴な雰囲気の高山に“教祖”になる事を指示。高山は熱心に教祖の勉強を始め、やがて厳しい修行まで始める。そんな中、駒村がある事件に巻き込まれて…。

原作・ビートたけし。現代の宗教模様をシニカルに描く。おそらく、実際の巨大宗教団体なんてこんなものだろうが、ラストが秀逸。ついに“教祖”になる高山役の萩原聖人のハマりぶりが面白い。

※貴樹諒音※ cinemaz-life@movie.nifty.jp ※告知ブログ※ <http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/>

次回発行予定は1月1回となります。の発行は2013年1月18日です。の

よろしくお願ひしますm()m.

よろしくお願ひします! 貴樹諒音

☆【最近のこれはお見事!】は、見事な映画の題名の紹介しします反して、【最近のこれはまずいぞ!】は、これは、まずいぞ!と思う映画の題名を紹介しします。

【最近のこれはお見事！】

『燃えよーじいドラゴン 龍虎激闘』おおーぜひ、ブルース・リーがお元氣だったら出てほしかったですね。

1987年アメリカ 監督：ハリソン・レフィンソン 「グッドモーニング・ベトナム」 出演：ロビン・ウィリアムズ フォレスト・ウィテカー

一九六五年ベトナム戦争も泥沼に落ち込み始めた頃。一人の男が、ベトナムのアメリカ軍の飛行機で降り立った。空軍に所属するエイドリアン・クロンナウア。彼はクレタ島の人気DJ。泥沼で意気の下がる兵士達の士気を高揚の為にサイゴン軍放送局の局長テイラー少将が、呼び寄せたのだ。



ベトナムは今は平和だ。典型的なアメリカ人クロンナウアは兵士に真実を伝えられないという事で矛盾を感じ始めるが、一方、自分のDJを聞いている兵士達が、ベトナム人を殺していくという構図をまったく気づく事もなく、身勝手なヒューマンズムをベトナム人に押し付けてアメリカを去る。

早速、DJを始めとした兵士達は狂喜する。今までは、オンエアする曲も限られ、ロックンロールなんて御法度！しかし、そんな決まりなど無視したクロンナウアの軽快なトークとジョークは、暗い戦況下の兵士達を和ませるのだ。同時に、クロンナウアは、町でベトナムの少女を見かけ一目ぼれする、名前はトリン。英語教室に通っている

美少女だ。そこで英語教室の教師になりトリンを口説こうとするクロンナウアだが、彼女の兄のツアンがいてうまく行かない。一方、彼は軍としての規約に縛られ思うようにDJができなくなり、日々不満が募ってきて……。アメリカにとりて結局負け戦となつた「ベトナム戦争」の二つの真実を描く。

戦争に走るアメリカの偽善性を浮き彫りにした映画で、クロンナウアの能天気な無邪気さが、戦争という悲劇を際ださせている。【正義の戦争】などない。その一言に尽きるのだ。

Film Movie Cinema Film Movie Cinema

【最近のこれはまずい！】『ロバート・ヘンレ』ヘンレ、旅行もするんやね。

16日：選挙が終わった。最低に近い政権だったと思う民主党政権は終わった。いろいろ意見はあるだろうが、やっぱり自民・安倍政権には期待してしまう。私はそんなに政治には語る頭もないのだが、民主党のダメダメぶりはわかる。しかし、国政・経済・外交・内政：たった三年で日本をこれだけダメにした政権は珍しい。それに付けても、《許容範囲》が、目一杯じゃなかんべか、て思っていた。維新が微妙な当選者数……。まさか、自民があればど取ると思わなかったし、ひよつとしてもつとは票を取れると思っていたのかも？でも、橋下さん・やっぱり人間は《許容範囲》ってものがありますからね。無理なさらぬでください。



選挙のセンスは真似しなくていいですが、明るいところは日本中に広がればいいのに。

で、安倍政権。自民が大勝して早速、アメリカのオバマ大統領から電話会談の申し出があったそうだ。オバマ大統領は、鳩山さんが総理になつた時も電話会談をしていりあえず「一安心」した会談ではなからうか。なんせ、わけわからん事はしないはずだから、話はフツーに通じるだろう。さて、来年に話題になりそうなのが、北海道夕張に出没する「メロン熊」。なんでも、ゆるキャラだそうだが、出現した先々で子供に泣かされる始末。年末には、テレビにも出現し始めついに先日は『笑っていいとも』で、バナナマンの目村にも噛みついてた。メロン熊は、マスコ・テラックスにも噛みついてたんだよね。かわいい系の「ゆるキャラ」が多い昨今、この「メロン熊」のアイデアは、バツグンに面白いと思うのです。

※編集後記※
☆今年も、後10日で新年を迎えます。我が家では、家の半分ほどの電化製品が壊れ新製品になり、ついでに日本も選挙でようやくリニューアル！来年から明るい日々を過ごしていきたいものです。☆以前から、占いの世界では今年世界的に、変化の年といわれていて、中東も革命が成功したりまだまだ探めていたり…。いつになったら落ち着くやら、日本のリニューアルが、世界が落ち着くきっかけになつてほしいものです。☆今年もなんとか、『シネマズライフ』を発行する事ができました。読んでくださった皆さまのおかげです。ありがとうございます。来年もよろしくお願ひします。



メロン熊だぞ〜！

